



# Hihatov

GALLERY

2021 **11.16-11.25**

at. KEI こどもえん Hihatov

# Hihatov

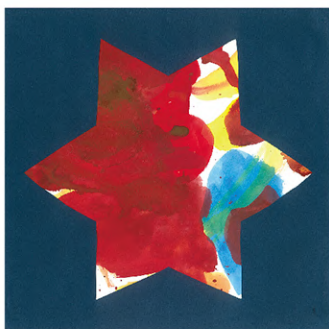
## GALLERY

ヒーハトヴギャラリーとは保育園の園舎をギャラリーとして開放し、保護者や地域住民の方々が子どもたちの制作した作品を自由に鑑賞できる場を設け、そのアートとしての社会的価値の創造を試みる企画です。鑑賞の場が開かれたものになることで、子どもたちの純粋な想像力や自由な造形が私たちの目の前により瑞々しく立ち現れることと思います。



### A 科学実験、へんしんする絵 (にじみ絵 1)

毎回の取り組みを細かなテーマに分け、絵を描く行為の本質に近づこうとした時期の作品。回を追うごとに色を増やしたり、紙の材質を変えたりすることで、色や形とイメージの関係に迫ります。



### B ロマンズ、どんな世界？ (にじみ絵 2「七夕」)

にじみ絵 1 で色や形を使ってイメージを生み出すことに親しんだ後、「七夕」という具体的なテーマの表現に移りました。「七夕」から「星、天気、宇宙」を連想し、自分の感性を通してそのイメージを作ります。十人十色の鮮やかな表現と楽しみ方を改めて感じられるテーマとなりました。



### C クリエイティブ、まほう (米粉粘土)

作品の材料となる「粘土」自体の制作からはじめ、立体造形に取り組みました。米粉、水、油、塩を材料に 1 から作る粘土。粉のさらさらした感触、水と混ざる感触、匂いなど様々な感覚を確かめながら、さらさらの粉が形になるまで、魔法のような過程を楽しんで作りしました。

また、この企画は運営のお仕事やキュレーションも出来るだけ子どもたちだけの力で行っています。自らの製作物・企画によって収益を生むことは、子どもたちにとって自信やモチベーション、将来への意識を高める大きな経験になります。入場料としていただくお金は、子どもたち同士の協力によって得られたものとして、子どもたち全員で自分の為に使わせていただきます。お小遣いとして与えられたお金と違い、ギャラリーで得たお金は自分たちの生み出した成果であり、そうして得た特別なお金はどのように使うとしても、かけがえない価値を感じられるものになると考えています。



---

## D 個性、アーティスト

(紙粘土)

---

粘土の感触を楽しむことから始まり、徐々に粘土の扱いに慣れてきて、絵とはまた違う立体物を作る楽しさに没頭していきました。形作ってはつぶしてやり直したり、全体のバランスを整えたり、自由に形が変わる粘土ならではの表現を一人一人が探求した作品です。

---



---

## E たしひき、インスピレーション

(コラージュ)

---

紙を切り貼りして自由にコラージュをすることでどんな表現が出来るかを探りながら、紙の切り貼り、水性ペン、絵の具など複数の素材を自由に組み合わせることでそれぞれのひらめきや工夫の詰まった表現になりました。

---



---

## F 再生、ファースト

(押し花)

---

初夏、園庭が濃く色づく頃、すくすく育ったハーブやお花を使って作った作品です。自然の形を観察し、方向を揃えたり、立体的に重ねたり、形の特徴を捉え、うまく活かすことで自由に表現を行いました。

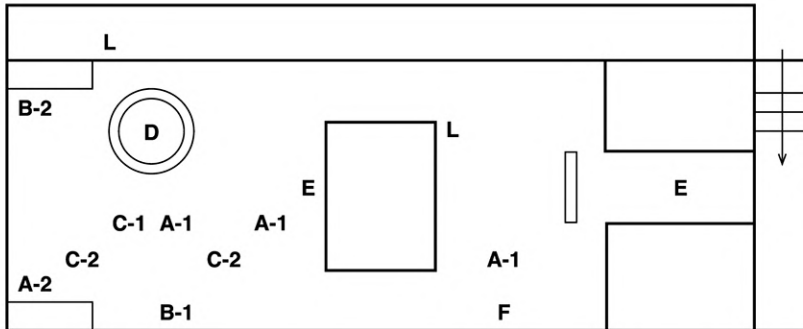
---

# Hihatov

GALLERY

2021 11.16 - 11.25

at. KEI こどもえん Hihatov



- A** 科学実験、へんしんする絵 (にじみ絵 1)      **D** 個性、アーティスト (紙粘土)      **L** ライブ ドローイング
- B** ロマンズ、どんな世界? (にじみ絵 2「七夕」)      **E** たしひぎ、インスピレーション (コラージュ)
- C** クリエイティブ、まほう (米粉粘土)      **F** 再生、ファースト (押し花)

## MESSAGE

開催にあたって

アーティストが現代社会の情勢や問題を反映し、批評性をもって表現する現代アート。その昔はどれだけ実物に近く、どれだけ印象的にイメージを作ることができるか、その技術がとても重要でした。しかし、現在そうした技術とは異なる価値体系によってアートは理解されるようになってきました。20世紀の美術に最も影響を与えた作家の一人と言われるマルセル・デュシャンはコンセプチュアル・アート、オブ・アートなど現代美術の先駆けとも見なされる作品を手がけました。彼は展示台に署名を書いた便器を飾り、『泉』というタイトルをつけてこれはアートですと言い切り、この彼の代表作はアートの価値を覆す転換点となりました。

僕はこの作品に端を発するアートの価値観の変化が子育てと非常に密な関係にあるのではないかと考えています。過去の教育は、技術を学び、正解を学び、良いとされる1つの価値観に向かい完成度を高めることを重視してきました。しかし、カメラなどの技術革新により再現性という意味において肖像画をうまく描けることの重要性は崩れ、絵を描く技術は異なる文脈の上で評価されることになりました。アートの世界において写真が肖像画を過去のものにしたように、AIやインターネットによって人間の能力の本質が根本的に問い直される段階に来ています。この大きな変化はまだ存在しない価値を見出しそれを力強く表現することの重要性を如実に物語っています。

Hihatov GALLERYを通して、子どもたちのまだ見ぬ可能性を垣間見ることができるのではないかと感じています。そして、将来彼らの中から、社会を批評し世の中の価値をかえてやろう！社会をよくしてやろうという子が育つと信じています。そして、この強い意識こそが未来の世界で成功を引き寄せる力になると考えています。

園長 田中 武文

入場料

大人 300 円 / 子ども 無料

開催場所

KEI こどもえん Hihatov : 〒671-1116 兵庫県姫路市広畑区正門通り 4-1-7

お問い合わせ先

070-7460-1568

開催時間

日程により異なりますのでお問い合わせください。

